三重病院ニュースレター

6 2016

NEWS LETTER vol.202

子どものO脚について 1ページ

Gifts(ギフツ) ゴスペルコンサートを開いて／職員のリフレッシュについて 2ページ

5病棟の生活のひとこま⑬／「やまばとギャラリー・個展」情報コーナー／異動のごあいさつ 3ページ

短期入所サービスをご利用のみなさまへ／外来からのお知らせ／外来診察のご案内 4ページ

子どものO脚について

下肢弯曲の自然経過

子供の下肢の弯曲は、成長に伴い変化します。一般的な経過は、乳児の頃は、大多数がO脚で、両方の下肢をそろえると両膝の内側がつかず、内側に弯曲しています。その後、このO脚の弯曲は軽くなり、両下肢はまっすぐに向います。そして、2歳頃にまっすぐを通り越し、3～4歳で逆のX脚のピークとなり、外側に弯曲するようになります。さらにその後、徐々にX脚の傾向は軽くなり、最終的に小学校低学年に、少しX脚程度に落ち着き、大人の弯曲の状態となります。

生理的O脚

幼児期にみられるO脚のほとんどが、病的でないO脚で、生理的O脚と呼ばれ、ほぼ自然に改善傾向となります。しかし、まれに病的なO脚が含まれるため、注意を要します。

2歳前後ですと鑑別が難しいこともあり、経過で判断することも重要です。

病的O脚

- Blount病(ブラント病)：脛骨内側の骨の成長障害で手術が必要となることが多いです。
- ビタミンD抵抗性くる病：代謝性疾患で、小児科治療が必要。低身長を伴います。
- ビタミンD欠乏性くる病：極端な食事制限、日光照射不足、極端な母乳栄養などによります。
- その他の代謝性疾患、骨系統疾患、外傷、感染、腫瘍など稀に見られることがあります。

受診についての留意点

- 高度肥満を伴う
- 片側のみに見られる
- 低身長を伴う
- 他の関節にも変形を認める
- 3歳過ぎても内反が残っている

大多数は生理的O脚ですが、鑑別が困難な場合や、程度によっては治療を要するものなどもありますので、お気軽に専門医にご相談ください。

O脚変形の推移

1歳9カ月時

1歳10カ月時
装具療法

4歳6カ月時

（整形外科　西山 正紀）